

[別 紙 2]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 野口真貴子

本研究は、妊娠や出産を正常で生理的なプロセスととらえる助産モデルを重視した日本の助産所出産の特性を明らかにすることから、助産モデルを組み入れた Safe Motherhood 戦略の方向性を検討し、以下の結果を得ている。

1. 地域に根づいた助産所では、助産師が女性と 1 対 1 で、妊娠期から産後まで継続的にケアを行う体制がとられていたことから、継続したプライマリー・ケアの提供という母児の安全性にも寄与する助産所出産の特性が明らかにされた。
2. 助産所の助産師は、確かな助産技術を備え、自然の摂理を尊重し、女性と同等の立場で受けとめ、見守り、心をこめて接する、母親のようにあたたかいサポートを行っていたことから、家庭的な出産環境でのサポートという助産モデルに基づく助産所出産の特性が具体的に明らかにされた。
3. 助産所出産で女性は、自分自身や自分を支えている周囲の人々、分娩進行への認識を深め、出産体験を通じてエンパワーされていた。出産体験が女性のエンパワーメントの契機になることから、21 世紀の国際協力の理念である人間開発アプローチの一環として出産をとらえるという意義が示された。
4. 助産所では、不必要な産科医療介入をしない出産が行なわれていたことから、過度な医療化の弊害をさけるという、助産モデルによる出産の在りかたが明らかにされた。
5. 助産所は正常妊娠、正常分娩を対象とする出産環境という特性があるが、必要時には適切に医療機関と連携することで、医療処置や医師の診断を受けていた。そのため、必要なレベルのケアに搬送できる医療機関との協力体制、医療の必要性を判断できるケア提供者、正常からの逸脱を早期に発見できる個別的な継続ケアの意義が示された。

これら 5 項目の助産所出産の特性は、従来の Safe Motherhood 戦略ではあまり重視されなかった内容であるため、このような日本の助産所出産の特性を生かした Safe Motherhood 戦略の重要性と必要性が提示された。

以上、本研究は、初めて Safe Motherhood 戦略という国際保健の視点から日本における助産所出産の特性を、量的研究方法と質的研究方法を用いて総体的に明らかにしたため、学位の授与に値すると考えられる。